（試験研究課題年次別解説集様式第 3-2 号：継続課題用）

浜名湖の漁業再建と輸出産業創出に向けたノコギリガザミの種苗生産及び養殖技術の開発

（予算区分［県費］　研究期間 2024～2026 年度）

担当：水産・海洋技術研究所　深層水科　　清水一輝・稲葉晃誠
開発加工科　望月万美子

【研究の背景とねらい】

・浜名湖では多くの魚種の漁獲量が低迷する中、ノコギリガザミの漁獲量は高位安定で推移しており、認知度向上により、販売単価は上昇傾向にあります。
・漁業者等からは漁獲量の更なる増加を期待し、種苗放流数の増加要望がありますが、種苗生産過程で、壊死症や過剰発育を伴う脱皮不全による大量斃死が常態的に発生し、量産化の妨げとなっています。
・一方、海外では脱皮直後のノコギリガザミ（ソフトシェルクラブ）の世界的需要が高くなっていますが、主産地である東南アジアでは天然資源に依存した養殖生産量は頭打ちで、複数の企業から人工種苗による養殖技術開発の要望があります。
・そこで、種苗量産技術を開発し、安定的な放流・養殖用の種苗供給体制を確立するとともに、収益性のある養殖技術の開発を行います。

【これまでに得られた成果】

（2024 年度の成果）

・過剰発育対策として、現状の種苗生産で給餌している餌料の栄養状態を把握しました。
・電解殺菌海水で飼育することで、壊死症を抑制できる可能性が示唆されました（図１）。
・ノコギリガザミに適した餌料（配合飼料）を開発しました（図２）。
・ソフトシェルクラブとして効率的な出荷に向け、脱皮の間隔や兆候を把握しました。

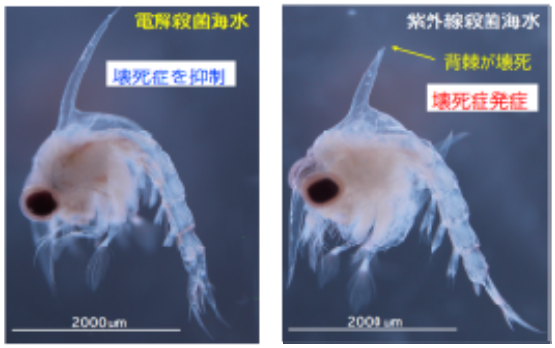

図１　電解殺菌海水による壊死症の抑制

図２　開発した餌料の写真

【期待される成果】

・開発した種苗量産技術を温水利用研究センターへ技術移転することで速やかな現場実装が可能となり、令和９年度以降、安定して 10 万尾以上の放流を実現させます。放流数の増加により、漁獲金額が増加することで、収入源が減り苦境にある浜名湖の漁業の再建に貢献できます。
・確立した養殖技術は、本研究を連携して行う民間企業と共有し、県内に新たな海洋産業として、ノコギリガザミの養殖業を創出します。

【今後の計画】

・生物餌料の給餌方法や飼育環境などの種苗生産条件の検討を行います。
・出荷サイズまで早く成長させるために、餌料や養殖環境の適正化を図っていきます。

（作成　2025 年４月）